

【基盤研究(S)】

人文社会系 (社会科学)



研究課題名 社会的障害の経済理論・実証研究

東京大学・大学院経済学研究科・教授 まつい あきひこ
松井 彰彦

研究分野：理論経済学

キーワード：ゲーム理論、社会的障害、児童養護、被災地医療・教育、長期疾病

【研究の背景・目的】

社会は「ふつう」の人々を基準に作られてきた。「ふつう」でない人々はしばしば福祉の対象とされてきた。かれらが福祉の世界での教育・養護を受ける立場から自立・就労を目指して経済社会に入ろうとするとき、さまざまな障壁に直面する(図1)。「ふつう」という言葉をキーワードとして、障害者、長期疾病者、児童養護対象児童、被災地の傷病者・児童等の「ふつう」でない人々を社会に包み込むために、ゲーム理論に基づいたモデルによってかれらが直面する社会的障害を統一的に読み解き、そのモデルを実証分析の俎上に乗せることで、問題解明の糸口を探る。かれらは「ふつう」の人々が直面する社会の歪みを映し出す拡大鏡であり、その問題を和らげることは社会全体の歪みを和らげることにもつながる。

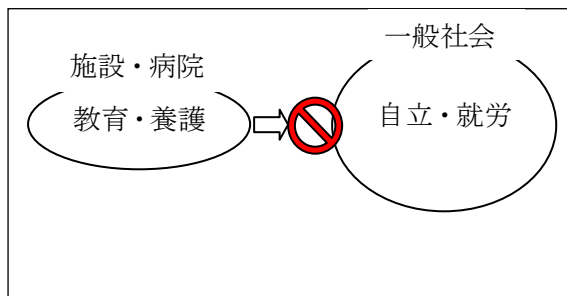


図1 社会的障害

【研究の方法】

研究対象別に障害班(長瀬修、福島智)、長期疾病班(児玉有子)、児童養護班(田中知美)、被災地班(上昌広)の4班を作り、そこに理論・実験、制度・事例、実証という研究手法別の班横断的なチームを作ることで、縦糸と横糸による緊密な連携を保つ(カッコ内は研究分担者等のコアメンバー)。理論・実験チームは動学ゲーム理論、帰納論的ゲーム理論、サーチ理論、行動経済学を総合的に研究・発展させ、差別や偏見、格差、負の連鎖等の問題を分析し、その成果を他チームとシェアし、構造推計のベースとする。制度・事例チームは単に調査に止めず、理論モデルや実証分析で得られた知見を元に、制度改革の効果を分析し、また、比較制度分析の手法を用いて国際比較を行う。事例は他チームにフィードバックする。実証チームは障害班において追跡調査・分析を行い、他班においても統計調査を行う。また、児童養護班においてフィールド実験を行う。

【期待される成果と意義】

最大の特色は、社会的障害という「ふつう」から外れた人が直面する問題を研究するために、経済理論そのものの変更を迫ろうとする点、またそれを通じて、「ふつう」の人々が直面する社会の歪みをあぶり出し、経済学そのものの方向性を変えようとする点にある。

これまで定性的かつ個別になされてきた「障害」、「長期疾病」、「児童養護」といった諸問題を「社会的障害」という視点から統一的に分析することで、われわれの社会の歪みを読み解く。社会・経済の歪みによって多くの人がストレスや生きにくさを感じている。OECDの中でも1、2位を争う自殺率の高さは氷山の一角でしかない。そして、その歪みは社会的・経済的弱者に集中的に顕在化する。社会的障害の経済研究は社会・経済の歪みを映し出す拡大鏡である。この問題を分析することで、そういった人々だけではなく、「ふつう」の人も含めた万人のための社会・経済制度を構築するための一助としたい。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・障害を問い直す, 松井彰彦・川島聡・長瀬修編著, 東洋経済新報社, 2011年.
- ・A.Matsui, O.Nagase, A.Sheldon, D.Goodley, Y.Sawada, S.Kawashima eds. "Creating a Society for All: Disability and Economy," The Disability Press, Leeds, U.K., 2012.

【研究期間と研究経費】

平成24年度-28年度
141,400千円

【ホームページ等】

学術創成研究費プロジェクト「総合社会科学としての社会・経済における障害の研究」のホームページ:
<http://www2.e.u-tokyo.ac.jp/~read/jp/>